

2021年 大学入試が大きく変わる!

# 大学入学共通テストの現状とその対策

本誌「メディカルラボ通信」では、これまでに2018年vol.1から4回に分け、「大学入学共通テスト」導入に向けた試行調査(プレテスト)も取り上げて、新入試制度の解説をしてきました。ところが、2019年11月に文部科学省は、英語外部検定試験と、また12月には国語・数学の「記述式問題」の導入延期を公表しました。そこで本号では、「大学入学共通テスト」の現状とその対策を考えてみました。

## ● 改革の2本柱が相次いで導入延期へ

前述のように「大学入学共通テスト」(以降、共通テスト)を巡っては、11月1日に英語の外部検定試験、12月17日には国語と数学の記述式問題の導入延期が文部科学省(以降、文科省)から公表されました。延期された内容は今回の入試改革の目玉の一つでもあり、新高2・3生の中には、これらの対策をすでに行っていた人もいました。また、2年くらい前から共通テストに対応するカリキュラムを考えて、授業や課外授業等でその対策を実施している高校もありました。これらの高校の生徒や先生方の混乱はもちろんです。共通テストとは直接関係のない2020年度入試の受験生が、浪人するかどうかを決めるにあたって、導入延期の少なからぬ影響が考えられます。

## ● 英語外部検定試験実施の延期について

2020年1月18、19日に実施された「大学入試センター試験」(以降、センター試験)は、今年が最後になりました。そして、2021年1月からは、「共通テスト」がスタートし、英語は将来的に「英語外部検定試験」に一本化される予定でした。そして、共通テストの英語では、「英語外部検定試験」でチェックされる、発音・アクセント問題(センター試験の第1問A発音、Bアクセント)と文法・語法と語句整序、応答文完成(第2問A,B,C)は除外される予定でした。しかし、2019年11月に文科省から「英語外部検定試験」の実施延期が公表され、各大学はその後、延期への対応策を発表しました。一方、大学入試センターは、「英語外部検定試験」が延期されても、2021年からの共通テストにおける「発音、アクセント、語句整序等を単独で問う問題は出題しない」としています。したがって、英語4技能をバランスよく試験するとしていた当初の目論見は変更を余儀なくされ、2021年の共通テストは、「書く」「話す」領域は除外されたまま、「読む(リーディング)」と「聞く(リスニング)」力を中心に問われる試験にシフトされる予定です。今後、英語の4技能をテストする新しい試験については、新学習指導要領が適用される2024年度実施の入試からの導入を検討するとしています。いずれにしても、高校で履修した英語の力が、バランスよく公平かつ平等に評価される入試制度に改革されることが望ましいです。

## ● 国語と数学の「記述式問題」の導入延期について

2019年12月になって、国語と数学の記述式問題も導入延期になりました。数学の2回目の試行調査(以降、プレテスト)では、ほぼ数式のみを解答する形式で記述式問題としては意味がない、という研究者や教育現場からの意見も聞かれました。一方、国語では、あの程度の記述式問題で、はたして本当に受験生の記述力を測れるのかという意見もありました。さらに、50万人以上の受験生が記述した答案をわずか2週間程度のアルバイトによる採点で、公平・公正にミスなくできるのか? また、プレテスト実施時に問題となった、受験生自身の自己採点と大学入試センターとの採点結果に3割前後の乖離があったが、国公立大へ実際に出願する際にその点数差から混乱がおきるのではないかと、という懸念が払しょくされていませんでした。

記述式問題の導入が延期となった以上、これらの代替として今後どんな問題が出題されるのか、これからの動向に注目しなければなりません。

## ● 「センター試験」と今後の「共通テスト」では、いったい何が異なってくるのか?

大学入試センターのWebページを見ると、センター試験については「大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするもの」と記載されています。一方、共通テストについては「高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的とする」、「思考力・判断力・表現力を中心に評価を行うもの」と記載されています。

また、共通テストでは、高等学校等における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、

- ①授業において生徒が学習する場面
- ②社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面
- ③資料やデータ等をもとに考察する場面

など学習の過程を意識した問題の場面設定を重視することとしています。

つまり、「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定がなされているということです。結果、今回の改革は、高校の「履修内容や範囲」の変更ではなく、「出題方針」自体が大きく変更され、試験の目的が異なってくることを意味しています。

ここで分かることは、センター試験よりも共通テストの方が、レベルが上がるということです。共通テストで求められる「思考力・判断力・表現力」については、これまでも国立大学2次試験や私立大学個別試験で求められていたものです。このような内容を、受験生50万人以上が出願予定の共通テストでも問うことになります。

## ● 共通テストで問われる「思考力・判断力・表現力」とは

英語外部検定試験や国語と数学の記述式問題の導入が延期になったことで、受験生の負担は軽減されましたが、共通テストでは「思考力・判断力・表現力」を問うということが、今までのセンター試験とは大きく異なる点です。大学入試センターのWebサイトには、過去2回実施された共通テストのプレテストが掲載されています。従来のセンター試験の問題しか知らない人は、その違いに驚くと思います。

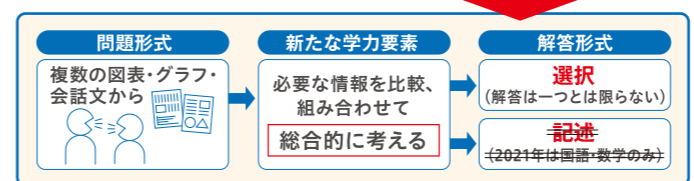
では、「思考力・判断力・表現力」とは、どういう力のことをいうのでしょうか。入試問題でいう「思考力」とは、初見の問題を解く際に、これまでに学習したこと、つまり知識や技能から推測して解答する力だといえるでしょう。また、「判断力」とは、与えられた様々な資料などから、どの資料のどの部分を評価・抽出して解決にあたるのかを考える力だといえるでしょう。最後の「表現力」ですが、いろいろな言語表現、言語活動を含み、「思考力・判断力」を使って考えたことを解答用紙に記述したり、言葉で伝える力をいうのでしよう。

しかしながら、果たして50万人以上もの大勢の人が受験するマーク形式の共通テストで、「思考力・判断力・表現力」を正確に問うことができるのでしょうか。

これらは各大学の個別試験で問うべきものではないかと疑問を投げかける人もいます。あるいは現在のセンター試験で問われている基礎的な学力の重要性を訴える人もいます。いずれにしても、今後の文科省からの発表に私たちは注意を払わなければなりません。

### 新高3生から「大学入学共通テスト」が開始される!

名称	大学入試センター試験	大学入学共通テスト
実施年	2020年1月まで	2021年1月から
出題方式	マークシート式	マークシート式+記述式(国語・数学から導入)
英語	読む・聞く	読む・聞く+話す+書く =英検やTOEFLなどの資格・検定試験を導入
求められる力	知識・技能 用語や解き方を覚えているか	知識・技能+思考力・判断力・表現力 知識や技術を使って考える力を確かめる



( ―― は導入延期となったもの)

## ● センター試験の受験者が共通テストを受験することになったら...

2020年度受験生が安全志向に向かう傾向にあるのは、浪人した場合、いわゆる「経過措置」が実施されないため、来年の共通テスト初年度の受験生と共に受けるのを回避するためでした。しかしながら、2021年1月実施の共通テストでは、英語外部検定試験と記述式問題(特に国語)の導入が延期されたことで、浪人した時の負担は大きく軽減されたといえるでしょう。

また、現在の学力では合格レベルに達していなくても、浪人した1年間で国立大学2次試験の受験対策をしっかり行うことで、共通テストで問われる「思考力・判断力・表現力」の対策は十分に可能です。ただし、模試業者が実施する共通テスト模試を複数回受験して、形式や時間配分に慣れておく必要があります。

私立大学医学部の1次試験は、これまでも多くの大学で、「思考力・判断力・表現力」を問う試験内容であったため、大きく出題傾向が変更にはならないと思います。

現役合格率の低さを考えると、安全志向で大学のランクを落として進学するよりも、1年間、浪人をして第一志望の医学部合格に向けてがんばった方がよい場合もあります。

## ● 全科目のマーク式問題で出題傾向が変化

共通テストでは「思考力・判断力・表現力」を問うため、すべての科目でマーク式問題の改善が行われます。今までのマーク式で主に求められていたのは、「知識・技能」でした。しかし、共通テストでは、複数の文章、資料、会話文などを読み取り、統合・考察する力が必要とされます。

過去2回のプレテストでは、これらが扱われる問題が全科目で増加し、そこから必要な情報を抽出し、比較、組み合わせて総合的に考察するなど思考力重視の出題が多く見られました。また、資料をもとに考察を深めていくタイプの問題だけでなく、ある「主張」に対して「前提となる事実」や「主張の根

拠として適切な資料」を選択させるなど、新傾向の設問も見られました。

社会との関わりを意識した出題が増加したことも特徴です。プレテストでは、すべての科目で社会や日常生活とのつながりのある題材が取り入れられました。

また、「正しいものをすべて選べ」など、当てはまる選択肢をすべて選択させる問題や、「解なし」の選択肢を解答させる問題など、従来にない問い方や解答形式の問題も多く見られました。ですから、これまでの消去法などのテクニックだけでは通用しない問題も出題されることになります。

英語のリスニングも単に聞き取るだけでなく、複数の情報を比較して判断したり、英語での議論を聞いて要点をまとめたりするなど、思考力が求められる内容になっています。例えば、社会的な話題などに関する講義を英語で聞いて図表やワークシートを完成させる出題や、聞き取りと並行して多くの情報を読解して答えさせる出題などがありました。これらの出題では、多くの情報の中から必要な情報を聞き分け、素早く判断することが求められていました。

深い理解を伴う知識や思考力を問う出題は理科(物理・化学・生物)でも顕著に見られます。例えば、身近な現象や題材をもとに実験考察力を問う出題や、実験結果に関する説明が科学的に正しい考察になるような選択肢を選ばせる出題などがありました。また、1つの大問内に複数の分野の内容が含まれる出題や、多くのデータや情報を読み取って活用する出題も多く、知識だけでなく与えられた情報をいかに処理するかといった読解力・思考力が問われます。

### 医学部合格のための共通テスト対策

- ①知識・技能を中心とした基礎学力の充実
- ②苦手分野をつくらない
- ③思考力・判断力・表現力を意識する
- ④全国模試を受験して問題形式に慣れる
- ⑤共通テストに関する最新情報を正確・迅速に入手する

## ● 思考力・判断力を鍛え、表現力を身につけよう

先ほども述べたように、共通テストではすべての科目において複数の情報を組み合わせて考える必要があり、暗記中心の勉強だけでは通用しません。これからは受験勉強で、さまざまな「思考力・判断力・表現力」を身につけていくことこそ、共通テストで高得点の獲得につながるのではないのでしょうか。そして、医学部に合格するためには、これまでのセンター試験と同様に、共通テストでも他学部より格段に高い得点率が必要になると思いますが、それがどの程度かは1年後でなければわかりません。

大きな変革の年にあたる受験生は不安も大きく、その準備も大変だと感じていると思います。しかし、過剰に不安になることはありません。新たに始まる共通テストに対応するために必要なのは、思考・判断・表現のもとになるしっかりとした基礎学力です。丸暗記ではなく、応用できる基礎力、つまり、確かな理解に基づく基礎力を身につけたうえで、その活用の仕方を良問の演習をくり返すことで、思考力・判断力・表現力を、効率よく伸ばすことができます。重要なのは学習の質です。従来の暗記中心の学習だけでは太刀打ちできませんが、自身の思考力・判断力を磨き上げ表現力を身につけていけば、共通テストでどんな出題をされても怖くないはずですよ。